



生駒利治議員

水産行政

ナマコ増養殖の推進を

漁協と連携し県に働きかけたい

内でも、漁業者、加工業者のナマコ増殖への関心が高まっている。

水産技術センターでは、中国の種苗生産技術を学び大量生産技術の開発に努めており、種苗供給量の増加が期待される。放流適地調査や養殖試験が町内で実施されるよう、漁協と連携し県に働きかけていく。

県水産技術センター、民間会社、久慈市での新たな取り組みが新聞報道され、町

質問

中国でのナマコ需要が増加し、日本からの輸出も急速に増えていると新聞、テレビなどで報道されている。久慈市では、県水産技術センターの指導を得ながら、官民一体となったナマコ増養殖研究会を立ち上げ、海域の資源と適地調査に着手し、二〇〇八年度から本格的な増養殖事業

に取り組むようである。本町でも、関係漁協と連携し、強力な行政指導によりナマコの増養殖が可能か、検討・調査する必要があると思うが見解を問う。

沼崎町長 ナマコの中国輸出が好調で値が上がり、東北・北海道で盛んに漁獲されるようになってい。漁獲量の少ない本県では、

町の考えを聞く

防災対策

船越半島に防災無線の増設を 無線受信機能のある携帯ラジオの活用を検討

質問 アワビ・ウニなどの磯漁の際に、津波警報が発令された場合、漁業者への速やかな情報伝達の手段として、防災行政無線の増設が必要でないか。

沼崎町長 磯浜は、陸上と違い風や波、船のエンジン音などで放送が聞きづらく、距離、場所によっては届かないことが考えられる。

これらの解消には多くのパンザマストの設置と多額の費用が必要であり、有効性の面からも困難であると

思う。

このため、津波警報などの情報伝達の方法として、磯漁の場合は監視船の無線の活用やサイレンによる周知、また海上で仕事をする場合などは携帯ラジオを携帯するなど考えられるので、漁協にも検討を求めていると思っている。

町として、無線受信機能もある携帯ラジオの有効性についても、活用できないか調査しているところである。



山田湾でのナマコ漁の様子